

## 「主体的に学び、考える児童の育成」 ～ICT機器を活用した学び合う授業づくり～

### I 研究内容

#### 1 研究の具体的内容と方法

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業づくり
- (2) ICT機器（タブレット）活用のための学習会
- (3) 授業案の作成と検討及び授業実施，ワークショップ型授業研究会，一人一実践
- (4) Q-U調査の実施2回とK13法による結果分析
- (5) 家庭学習と授業を有機的に結びつける取組

#### 2 研究実践

##### (1) ICT機器活用のための学習会

「ICTの効果的な活用方法とプログラミング教育」

講師：山梨県総合教育センター情報教育部 主査・指導主事 岡田 久幸先生

##### (2) 授業実践とワークショップ型校内研究会

###### ア 授業実践（10月）

第6学年	道徳科「友達だからこそ」【edutab】	那須 達憲教諭
	指導助言：甲州市教育委員会指導主事	小椋 規雄先生

###### イ 一人一実践

第1学年	道徳科 「わたしのよいところ」	雨宮 由香教諭
		岡 八寿江教諭

第2学年	算数科 「九九をつくろう」	平山 沙織教諭
------	---------------	---------

第3学年	道徳科 「まどガラスと魚」	川野 和昭教諭
------	---------------	---------

第4学年	算数科 「分数をくわしく調べよう」	中根 絵里教諭
------	-------------------	---------

第5学年	学級活動	
	「Chromebookを使って、2学期のふりかえりをしよう」	三森 翼教諭

第5学年（専科）外国語	「I want to go to Italy.」	小宮山公仁教諭
-------------	--------------------------	---------

たんぽぽ学級 国語科	「とかげとぞう」	清水 新果教諭
------------	----------	---------

第6学年（教務）家庭科	「くふうしよう おいしい食事」	古屋 ゆか教諭
-------------	-----------------	---------

###### ウ 遠隔協調学習システム【TV会議システム+edutab】

新潟県妙高市立斐太北小学校との交流学習会（第6学年）

- ・遠隔地の学校においても，発表をもとに自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりしながら協働して学び合おうとする意欲を育む。また，相互に個々の意見を閲覧することで，教室と教室の交流から，個人と個人の交流につなげていくことをねらいとしている。

<内容>各校での教科・総合的な学習の時間に関する学習発表と意見交流

- ・塩山北小学校・・・1年から6年までのふるさと学習のまとめ
- ・斐太北小学校・・・弥生・古墳・戦国時代の学習

(3) Q-U結果を分析し、アタックシートを活用した学級集団づくり

Q-U調査の結果を、低学年・高学年のブロックごとに分析し、アタックシートを作成。日々の学級経営に生かし、個々の児童や集団の変容を見取ることができた。

(4) 家庭学習の取組

- ア 校内2カ所に学年毎に、手本となる児童の自主学習ノートを掲示した。教科を入れ替えながら掲示し、児童が相互に学べる機会を意図的に設けた。
- イ 各学年において「家庭学習の手引き」「家庭教育・子育てQ&A」を活用した効果的な家庭学習の提案を行った。また、家庭学習スタンバイの時間の取組や、家庭学習が授業の内容と結びつくような指導を行った。

## II 成果と課題

### 1 成果

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点をもち、授業におけるICT機器の活用場面や機器の選択をしながら子供たちの学びを支える授業づくりの研究を進めることができた。
- 授業改善の手段としてICT機器の活用を行うことにより、児童の主体的な学びの育成とともに、学び合う集団としての質も高めていくことにつながった。
- 昨年度の研究を踏まえ、授業改善の1つのツールとしてICT機器の活用が日常的になった。児童の様子からも学習意欲が喚起されたり学びを広げたりするなど様々な学習効果が見られた。
- K-13法による結果分析により、ブロックの先生方と情報を共有しながら具体的な対応策を検討し、日々の実践に生かすことができた。
- 家庭学習推進部会をつくり、校内掲示やビンゴカードを全校で取り組むことにより、学校全体で家庭学習に取り組む雰囲気が高まった。

### 2 課題

- ・一人一台端末の導入により、授業におけるChromebookの活用法を学び、本格実施に備えていきたい。
- ・指導者のICT機器活用方法やリテラシーには個人差があり、学校全体で指導力向上に取り組まなければならない。
- ・家庭学習と家庭学習スタンバイの時間は、甲州市の取組とあわせて今後も確実な定着をめざして取り組むことが必要である。

## III 成果物

- 1 研究授業及び一人一実践の授業案、遠隔協調学習に関する授業案及び資料(edutab)
- 2 Q-Uアンケート結果、アタックシート
- 3 「学習用具のきまり」(第1学年～第6学年)、家庭学習全校掲示用資料

( 研究主任 平山 沙織 )